

第 4 回 安全・安心で持続可能な未来のための社会的責任に関する研究会 議事要旨

1. 日 時 平成 20 年 3 月 6 日（木）17:00～19:00

2. 場 所 内閣府本府庁舎 5 階特別会議室

3. 出席者

（研究会）

松本委員長、秋山委員、阿部委員、海野委員、小畑委員、上妻委員、谷本委員、浜辺委員、藤井委員

（事務局）

岩崎企画課長、竹田課長補佐、佐藤課長補佐、株式会社日本総合研究所

4. 議 題

- 市場環境整備策検討ワーキンググループの検討状況について
- 社会的責任の取組促進に向けた円卓会議（仮称）の在り方について
- ステークホルダーの能力向上（キャパシティ・ビルディング）について

5. 会議経過

上妻委員より資料 2 に基づいて説明が行われた。

市場環境整備策検討ワーキンググループの検討状況について、質疑および意見交換が行われた。

内閣府より資料 3，4，参考 1 に基づいて説明が行われた。

社会的責任の取組促進に向けた円卓会議（仮称）の在り方について、質疑および意見交換が行われた。

内閣府より資料 5，事務局より参考 2 に基づいて説明が行われた。

ステークホルダーの能力向上（キャパシティ・ビルディング）について質疑及び意見交換が行われた。

事務局より参考 3 に基づいて説明が行われた。

委員からの意見の概要は以下の通り。

< 主な意見 >

社会的責任の取組促進に向けた円卓会議（仮称）の在り方について

- 円卓会議で持つビジョンはある程度抽象的にならざるを得ないかもしれないが、具体的な重点課題を示す段階では、地域社会のあり方や地球温暖化の環境問題等、特定の

視点からではなく全体的な視点で考えていけるものをテーマとして提示した方がよいのではないか。

- 円卓会議には各省庁の関与が重要であり、従来の審議会のように内閣府が開催する一円卓会議という位置づけにはしないほうが良い。各省庁の横断的連携をさらに進め、積極的に参加を促すような必要があるのではないか。
- 担当の大臣を置くような、国家戦略レベルの取組が必要ではないか。
- 日本には各省庁の取組はあるが、日本という国としての持続可能な社会のビジョンがない。つまり、各省庁が参加するというボトムアップ的なことだけではうまくいかず、内閣府が調整し総合的なことをやるといったトップダウン的なこと、さらには世界との協働・連携、というこの三つが必要になってくるのではないか。
- 議論を社会に浸透させていくこと、教育を通じた意識の浸透を図る必要性、またキャパシティ・ビルディングという側面を考えると、メディアや教育機関についても、円卓会議に関して何らかのかかわりが考えられるのではないか。
- メディアに限れば、その本来の役割として意味あるものを報道するものであり、円卓会議で意味のある活発な議論をして成果を出せば報道され、それが広く世に広まっていくので、円卓会議自体に関わる必要はないのではないか。
- 円卓会議の場はそれぞれのステークホルダーにとって教育の場でもあり、また、トップダウン的な意味で日本政府が提案しているESDとこの円卓会議の設置をリンクさせていくべきではないか。
- 協働行政という言葉を用いることの意味について、その目的、円卓会議との関連性、ステークホルダー及びコーディネーターとしての行政の役割をもっと明確に意識して示すべきではないか。

ステークホルダーの能力向上（キャパシティ・ビルディング）について

- 社会的責任の促進のための研究機関を新たに作るにしても、既存のものを統廃合していくにしても、ステークホルダーの能力向上や円卓会議との関連を明確に示す必要があるのではないか。

- 高等教育や産業界での教育のみならず、初等教育から社会教育、生涯学習まで、持続可能性に主体的に参加する人間をどう育てていくかという視点から、ステークホルダーのキャパシティ・ビルディングをESDの一環に位置づけるべきではないか。
- 日本では、産業界や労働組合といったステークホルダーに比べて、NGO等の市民社会を代表する組織を取り巻く環境が著しく貧弱である。組織だけではなく組織を取り巻く環境についてのキャパシティ・ビルディングを行う必要があるのではないか。
- キャパシティ・ビルディングによってステークホルダーとしての役割を伸ばしていくということも重要であるが、各ステークホルダーが本来備えている機能を十分に発揮するという視点からもキャパシティ・ビルディングが行われる必要があるのではないか。
- ステークホルダーだけではなく、円卓会議のような場を調整し進行を務めるような人材のキャパシティ・ビルディングが必要ではないか。

(配布資料)

資料1．第三回安全・安心で持続可能な未来のための社会的責任に関する研究会議事要旨

資料2．市場環境整備策検討ワーキンググループの検討状況

資料3．国民生活審議会総合企画部会における審議経過

資料4．安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議の開催に向けて(案)

資料5．ステークホルダーの能力向上(キャパシティ・ビルディング)についての論点案

参考1．諸外国の持続可能な発展戦略について

参考2．諸外国におけるキャパシティ・ビルディングの取組例

参考3．安全・安心で持続可能な未来のための社会的責任に関する研究会欧州ヒアリング
調査報告

以 上